

システム情報工学研究科修士論文概要

年 度	平成 26 年度	学位名		修士(工学)
専 攻	知能機能システム	専攻	著者氏名	三浦 慎平
指導教員氏名 星野 准一				
論文題目 SyncThink: 芸術鑑賞における協調学習支援システム				
論文概要 <p>近年、美術館は利用者の様々な学習目標やレベルに応じた学習ができることから、学習者中心の学びの場として注目されている。従来、美術館の中心的な役割は、資料の保管や整理であったが、近年では、多様な文化財を活用した学習者参加型の教育活動が実践されている。美術館での教育活動において、盛んに実施されている学習方法として協調学習がある。協調学習は、学習者が主体となり学習を進めることができるため、初学者の作品鑑賞の入門として盛んに実施されている。</p> <p>しかし、協調学習において初学者は、作品理解の深化には繋がらず、独りよがりな学習になることが問題として挙げられている。初学者は、自身の価値規準が先行する主観的な判断での理解に留まり、鑑賞作品の技巧や作品意図の理解には至らないことが指摘されている。そのため、何らかの学習支援無しには、独りよがりな見方から逸脱できず、作品理解の深化には繋がらないことが問題として挙げられている。そのため、作品理解の深化に繋がる学習支援環境の構築が求められている。</p> <p>そこで本稿では、作品鑑賞の初学者を支援対象に、作品理解の深化に有効な協調学習支援環境の構築を目的とした。作品理解を深化させるためには、学習者間の見方の違いの発見や作品知識の獲得を支援することにより、主観的な判断基準から逸脱させることの重要性に着眼し、概念マップとソーシャルタグを活用した協調学習支援システム：SyncThinkを提案する。</p> <p>評価実験結果から、SyncThinkの概念マップの作成・共有機能(Think, Share)は、学習者間の作品認識の共有を容易にし、学習者間の見方の違いの発見に有効に機能していたこと、概念マップを利用した関連作品の検索機能、共有・比較機能(Enrich)は、各学習者の能動的な作品知識の獲得を有効に支援していたことを確認した。また、各システム機能を連携して利用することで、学習者は、自身の主観的な判断基準だけでなく、作品意図への疑問や技法に基づいた客観的な見方も取り入れながら、協調学習のもつコミュニケーションの楽しさを損なわずに、作品理解を深めていたことを確認した。</p>				
審査日 平成 27 年 1 月 29 日				
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)	
主査	筑波大学 准教授	博士(情報科学) 博士(デザイン学)	星野 准一	
副査	筑波大学 教授	博士(医学) 博士(工学)	星野聖	
副査	筑波大学 准教授	博士(工学)	鈴木健嗣	